

## 許可作業—そこには特別な理由がある

2020年5月

2010年11月9日、米国ニューヨーク州北部で、協力業者が水性ポリマースラリー用のタンクに新しいサポートブラケットを溶接していた。タンク外部は引火性物質のモニターを継続的に行い、火気作業の許可が出されていたが、タンク内部は検査されていなかった。爆発が発生し、1人が死亡、もう1人が第1度の火傷と他に軽傷を負った。

スラリー内の残留引火性物質を含め、スラリータンクとの接続を見落とししていたこと、タンク内部の配管に漏れがあったことなど、いくつかの要因により引火性蒸気が蓄積していた；これが火気作業の火花により着火したものである(参考: Chemical Safety Board Investigation Report #2011-01-I-NY)。定常的に行わない作業には作業許可が必要なことがある。許可証は通常チェックリストで、誰かが記入し、別の人が吟味して承認する。作業許可の例には、しばしば；閉所作業 (CSE)、火気作業、ロックアウトタグアウト (LOTO)、配管切り離しや機器の開口作業が含まれる。企業によっては、クレーンの移動と設置、バキュームカーの使用、安全システムの停止、などの非定常的な作業に許可証を使用している。化学業界での重大な事故は、多くの場合、これらの作業やその他の許可作業が関与している。



**火気使用作業中に発生した致命的な火災と過剰圧力の結果。**

作業許可証には、その作業特有の危険性が適切に理解され、作業前、作業中、作業後に管理されていることを確認できるように、チェックリストが添付されている。

**事前**— 許可証に示されたすべての要件は、**作業開始前**に確認および承認されなければならない。

**最中**— 作業の進行に伴って状況の変化が生じていないことを確認するために、エリア内の作業を監視しなければならない(例：閉所作業の環境や引火性物質濃度のレベル)

**事後**— 許可作業中に変更を加えられた装置、プロセスの状態または物理的状态が適切になっていることが、運転が再開される前に確認されていなければならない。

### 知っていますか

- 非定常作業には、作業中に安全装置を外したり、停止しなければならない場合がある。それは、通常のアラームが作動しないとか、安全システムが利用できない、ということの意味している。
- 特別な作業中には、プロセス条件が変わったため、バルブの開閉が通常と異なった状態になっている場合がある。これらは許可証に記載する必要がある。
- 協力業者は作業許可の一部を行っているだけで、システムを理解していない可能性がある。

### あなたにできること

- どの様な時に作業許可が必要かを理解し、許可手順を遵守すること。
- 作業の準備や許可証発行で手抜きしないこと。協力業者が許可作業に就いている場合、協力業者が条件を認識し、自分の許可された作業範囲を適切に実行しているかを確認すること。
- 作業が完了したら、作業現場に行き、運転の再開準備ができていないこと、およびすべての安全システムが機能していることを確認すること。
- 許可作業に従事する場合は、それを真剣に受け止めること。自分や他の人の命が掛かっているかもしれない。

**命が掛かっていると思って作業許可を使用すること・・・本当に死ぬかも！**